

不倫人妻調教物語

自分を知って
欲しい

杉原京子編 22

ほら！
全力で
奉仕して！！



不倫人妻調教物語



杉原京子編(22)



前回までのあらすじ

36歳の人妻、杉原京子(すぎはらきょうこ)はジムのインストラクターの速水良樹(はやみよしき)と不倫関係になる。

夫である杉原英輔(すぎはらえいすけ)はその事実を知り、ショックを受けたが、それ以上に妻が犯される姿を想像することで興奮する自分に驚いていた。

夫婦は調教プレイで強く結ばれる。

英輔は、エロ子に、ジジーズという高齢のエロプレイチームを紹介される。

激しいプレイによって、京子はM女としての喜びを存分に味わい、

英輔と深くつながる体験をした。

また、英輔と京子は、エロ子の別荘にて、詩織との激しい3Pを体験する。

英輔は、同僚の村上正一から、妻の遥を英輔と京子のエッチに参加させて欲しいと依頼される。

英輔は、京子と共に村上夫妻と調教プレイすることになる。

京子は遥に、M女として共鳴していく。

解説の視点

村上遥、
旧姓、小林遥は、
裕福な家庭の子
として生まれた。

しかし、小学校に
上がる頃、
父親の事業が
うまく行かなくなり、

以後はひもじい
生活が続く。

その影響で、
遥の最優先の欲求は、
経済的に安定した
生活を得ること
になった。

童顔でスレンダーな
体型を活かし、
そうした趣味の男たち
から貢がせることも
していた。

好きだから
付き合うのではなく、
生活の糧を得ることが
目的だった。

正一との出会いは
友人を通して
だった。



短期的な付き合いに
疲れていた遥は、

比較的安定した
仕事についている
正一と結婚する
ことにした。



正一のことには
嫌いではないが、
愛しているという
感覚はほとんど
なかった。



安心できる生活が
手に入る喜びの
方が大きかった。



おざなりのエッチにも
満足はできなかった。



しかし、平穏な生活が
続くと、その刺激の
なさが苦痛になった。



ある日、正一が
エロ玩具やエロ服を
持つてきた。

どっかな？

刺激に飢えていた
遙は、道具を使う
ことで、

初めて、高い性的
悦びを感じる
ことができた。

あぁ...

また、
自分が昇天
しまくる姿で

正一を喜ばせる
ことができるのも、
嬉しいと感じた。

その為、正一が、他の
男に自分を抱かせたい
という願望にも応える
ことにした。

夫に見られながら、
他の男とセックス
することに、

自分でも少なからず
快感を覚える
ことも発見した。



グイル

それで、
どういうプレイを
すればいいのかは、
よくわからなかった。

グール

自分がマゾである
ということは、
薄々気づいていたが、

ほら！
全力で
奉仕して！！

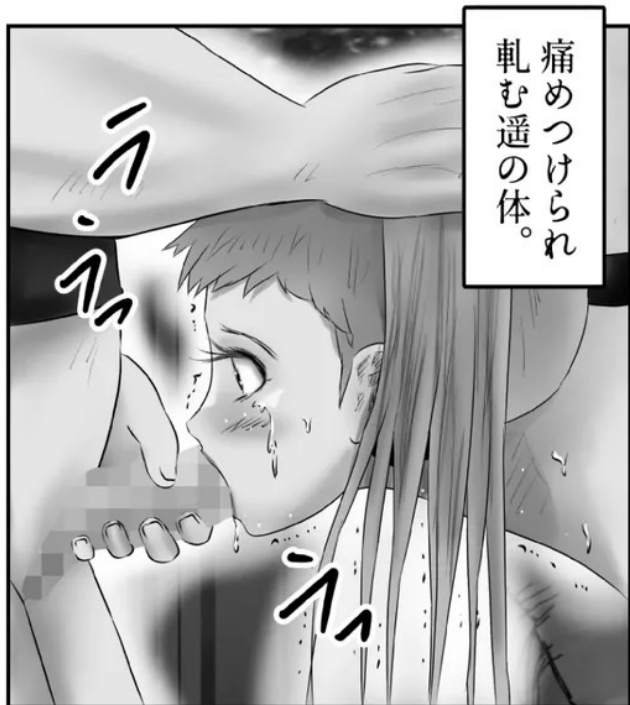
まだ、
そこに壁が
ある感じが
していた……

グイル

グール



英輔は、容赦なく
そり立った
ペニスを咥えさせた。



痛めつけられ
軋む遥の体。



遥は、ゆつくりとだが、
確実に、喉奥まで
ペニスを挿入された。



くちマンコで
奉仕しなさい！

英輔は、力強く
股間を遙に
押し付け、

ペニスを首の
奥まで挿入し、
射精した。

口内がペニスで
塞がれたまま、
大量の精子が
噴き出した。

妻の激しい肉穴奉仕に、
正一は身震いしながら、
射精し続けていた。

ああ、
遙……

強烈なイラマチオと、
鼻孔まで塞ぐ精子に、
遙の肉体は震え、
思考は途絶え
続けた。

だが、遙は、
その状態に、
どこか心地よさを
感じていた。

苦しみ
に
震える遥に、
京子は親近感
を感じた。

だいぶ
良い表情に
なってきたわね

ご褒美に、おマンコにも
旦那様のおチンポ様を
入れてもらいましょう

英輔に激しく遥を
犯してもらい、
M女の快感を
味わせたかった。

アナルも
気持ちよく
してあげるから

京子が
かつて、
経験した
ように……

英輔は、
遥のおマンコに
膨れ上がった亀頭を
添えた。

また、京子は
アナルフックを
遥のアナルに
挿入した。

ひんやりとした
フックの感触が
遥を襲う。

ああっ！ あっ！
アナルまで！

英輔は、膣奥まで
ペニスを挿入した。

快感が
遥を襲う。

ああ！

ほら、気持ち
いいでしょ？

おマンコの
快感神経を、

とことん刺激
してあがるから

肉穴人形として
全力奉仕するのよ！

英輔のペニスが、
激しく挿入された。

挿入されるたびに、
ご主人様の濃厚精子が
子宮に注入
されてるでしょ？

ペニスは、
押し込まれる度に、
精子を噴出していた。



じつくり
その熱を感じて、
味わって

熱い精子が、
お腹に溜まって
いくのがわかる？

遥は、精子の存在を
確実に感じていた。



遥は力を
抜こうと思った。

おマンコの
快感に酔いしれて



我慢しないで、
楽になって

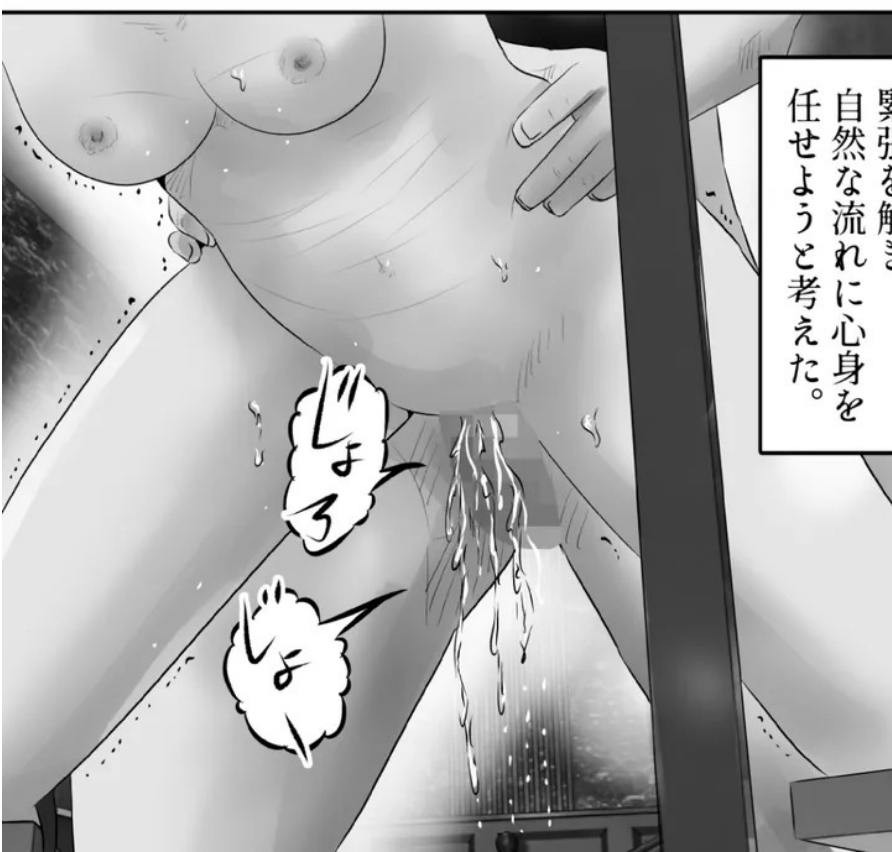
京子の言葉は
刺激に混乱する
遥を鎮めていった。



あんたは、
チンコ奉仕の
玩具なんだから、

はあ
はあ
はあ

何も考えないで
快感だけ感じて
いればいいの



緊張を解き、
自然な流れに心身を
任せようと考えた。



遥……

京子の言葉に促され、
遥は力を抜いた。

ずっと心も体も
軽くなった。

同時に、自分を
俯瞰して見るような
感覚があった。

未体験の
感覚だった。





あんたの旦那も、
あんたの穴を
楽しみたいようよ



遥...

初めて見る遥の
表情に、正一は
複雑な感情を
抱いた。



ほら、
行くわよ

京子は、正一の
縄をほどいた。



何も考えず、
穴を広げて
待ってなさい

遥は、犯され
ながらも、
痛みはなく、

じんわりとした
快感を得ていた。

正一は緊張しつつ、
硬直ペニスを
遥の口元に寄せた。

拘束され、
犯される状態
の遥に、

奉仕させるのは
初めてだった。

遥はそつと、
正一のペニスを
咥えた。

今まで感じた
ことのない
開放感と幸福感が、

遥を
包んでいた。

不倫人妻調教物語



杉原京子編(22)



前回までのあらすじ

36歳の人妻、杉原京子(すぎはらきょうこ)はジムのインストラクターの速水良樹(はやみよしき)と不倫関係になる。

夫である杉原英輔(すぎはらえいすけ)はその事実を知り、ショックを受けたが、それ以上に妻が犯される姿を想像することで興奮する自分に驚いていた。

夫婦は調教プレイで強く結ばれる。

英輔は、エロ子に、ジジーズという高齢のエロプレイチームを紹介される。

激しいプレイによって、京子はM女としての喜びを存分に味わい、

英輔と深くつながる体験をした。

また、英輔と京子は、エロ子の別荘にて、詩織との激しい3Pを体験する。

英輔は、同僚の村上正一から、妻の遥を英輔と京子のエッチに参加させて欲しいと依頼される。

英輔は、京子と共に村上夫妻と調教プレイすることになる。

京子は遥に、M女として共鳴していく。

京子の視点

遙ちゃん、
きつとM女としての
深い悦びを感じた
ことがないはず。

私と同じなら……

本当の自分を
出してリラックス
したこともなさそう。

自分が何に悦びを
感じるのかも、
知らないはず。

自分に悦びを
感じる感覚が
あるのか……

どこにその
スイッチがあるの
かも知らなさそう……

正一さんとの結婚も、
何かからの逃げ
だったんじゃないか
しら？

どうしても
結ばれたい、と
思っ
ての結婚
ではなく……

逃げが悪いわけ
じゃないけど、

遥ちゃん自身でも
満足はして
いないはず。

満たされなさ
が、
ありそう。

だから、
刺激を求めて、
来たんでしょ
う？



あぁ...

今までのプレイから、
やっぱりマゾ的素養が
あると思う。

でも、まだ
殻を感じる。



どっかな？

遙ちゃんが、
何に悦びを見出すのか、
実際にはわからないけど……



それが破れれば、
遙ちゃんは、自分自身を
もっと理解できそう。

満たされて、
色々楽しめそう。

グイル

未知の刺激で、
未知の感覚を
知って欲しい。

グール

その殻を破るには、
きつともつと
強い刺激が必要なの。

ほら！
全力で
奉仕して！！

隠されていた
自分を知って
欲しい。

グイル

グール



激しい
ピストン運動……



強制的に喉が
塞がれて、
苦しいでしょ？

でも、
それでいいの。

チンポ奉仕の
肉穴になって。



旦那様の精子、
飲ませて
もらいなさい！

全ての穴をチンポで
塞がれて、利用される
ことに快楽を
感じ始めるの。



それが快楽に
変わる時が
来るはず。

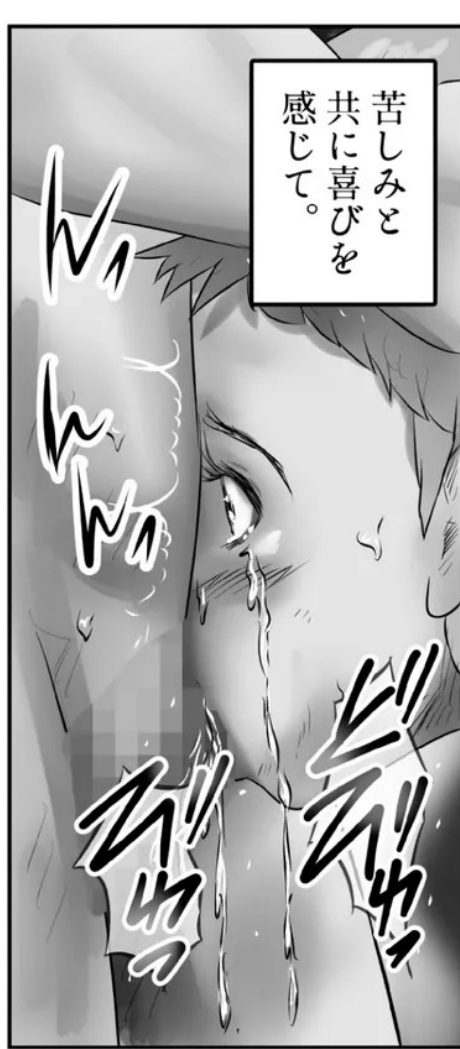


ほら、
逃げられない
状態で、



最高の
苦しみが
訪れるわよ。

苦しみと
共に喜びを
感じて。



ご奉仕肉穴に
なることで、
色んなものが
解放できるから。



ああ、
遥……

緊張なんか感じる
暇なく、M女としての
快感の波が押し
寄せてくるから。



ああ、本当に
可愛い。

だいぶ
良い表情に
なってきたわね

ご褒美に、おマンコにも
旦那様のおチンポ様を
入れてもらいましょう

苦しむ遥ちゃんが
とても愛おしい。

アナルも
気持ちよく
してあげるから

どんどん殻を
破って、遥ちゃん
自身を見せて
欲しい。

もつと気持ち
よくなる部分
があるの。

肉体にも
精神にも。

遙ちゃんにも、
そんな自分自身を
知って欲しい。

ああっ！ あっ！
アナルまで！

ほら、
ペニスが入った。

気持ちいい
でしょ？

ああ！

ほら、気持ち
いいでしょ？

おマンコの
快感神経を、

とことん刺激
してあがるから

肉穴人形として
全力奉仕するのよ！

どんどん、
自分をご奉仕
肉穴になって、

気持ちよさに
酔いしれて
欲しい。

挿入されるたびに、
ご主人様の濃厚精子が
子宮に注入
されてるでしょ？

新しい感覚に
親しんで。



じっくり
その熱を感じて、
味わって

熱い精子が、
お腹に溜まって
いくのがわかる？

奉仕を楽しめる
くらいになって。

我慢しないで、
楽になって

遙ちゃんの
緊張を解きたい……

普段もずっと
強いストレスを
感じているみたい。

おマンコの
快感に酔いしれて

あんたは、
チンコ奉仕の
玩具なんだから、

何も考えないで
快感だけ感じて
いればいいの

遙……

気持ち良い
リラックス状態を
知ってもらいたい……

力を抜く感覚を
覚えて欲しい……

重い荷物を
手放すように……

そんな荷物なんて、
もともと
なかったってことに

気づいて欲しい……





あんたの旦那も、
あんたの穴を
楽しみたいようよ



遥...

正一さん、
ずっと勃起
したまま。



ほら、
行くわよ

二人を深く
交わらせたい。



何も考えず、
穴を広げて
待ってなさい

肉便器
遥ちゃんに
興奮している
みたい。

正一さんの
ペニス、
大きいまま。

レレレ
レレレ

遙ちゃん
で興奮
して
いる
こと
を、
彼女
に
伝
え
て
欲
し
い。

遙
ち
ゃ
ん
の
魅
力
を
も
つ
と
わ
か
っ
て
欲
し
い。

彼
女
と
よ
り
深
く
、
結
ば
れ
て
欲
し
い
……

レレレ
レレレ